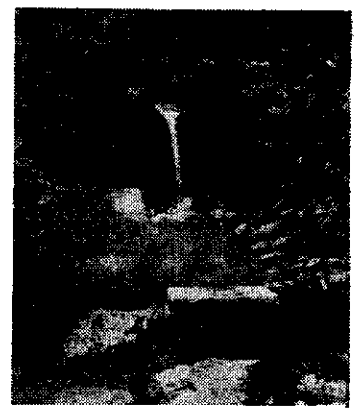
断水つづく水道

原因は多い不正使用

今春以来の異状なかわきで、しばしば簡易水道の断水や時間給水をし、利用者に不便をおかけしています。それでも、最近は水源の水も増し、利用者が家事に必要な水は十分送っています。ですから、簡易水道の目的と計画的施設から考えると、水道を使用しない夜間中に配水池は満水になって、これで全利用者の八時間使用分が確保されることになっています。ところがこの水が少しもたまらず。からつぽになってしまうのです。原因は、夜間に不正な使用が行なわれているものと考えられます。じゃ口一個のかけ流しがあると約六十戸の使用分が流水してしまいます。こんなかけ流しがいくつもあると、どんなに水があつても足りません。そこで、次のことにご協力ください。

◎田や畑には使用しないこと
◎かけ流しをやめること。
◎大きな水槽の貯水をやめること。



写真右は小幡簡易水道水源地

うどん食べた水道

便利で衛生的なはずの簡易水道も、ふしだらな使い方をすると、危険この上ない不衛生な問題が起ります。特に断水時にはおもしろいような、恐しいような、そつとする話があります。

◇◇さきごろ小幡の簡易水道内で、水道にうどんを食べられた話。Aさんの家で夕食にうどんをつくり、水道のじゃ口の下においた。用事が済んで「さあ食べよう」という段になつたらうどんがありません。「だれが食べたんだ」ということで家中大さわぎしたが食べた人がいない。それもそのはず、水道が食べてしまつたのです。おかげで下の家ではじゃ口からちぎれたうどんがぞくぞく。

◇◇天引金井簡易水道では、せつかくためた水を水道にとられた話。ときどき断水するのでホースを水そうに入れたままでじゃ口をあけはなし、水をためていた。断水になつたのでそのままおいたら、水そうの水が一てきもなくなつてしまつた。水道のいたずらも、ゆだんできませんね。

二つの話は、断水のときに水道管に真空状態が起るために、逆に吸い上げられるのです。写真のように洗たくタライにホースを入れつぱなしにしておくときたない洗たく水を水道が吸い上げてしまい、下の家庭でそれを飲む結果になります。まつたく不衛生きわまりない話です。

家庭では、じゃ口をぜつたいにあけはなさぬようにしましよう。

写真は危険の状態にあるじゃ口

用便後も、食事のときも、一日に何回
富岡市にも　吉井町にもセキリ
でも手をあらいましよう。
ハエを殺せ、　衛生のみやこ
甘楽町をつくり、安心して生活しよう。

新生活と貯蓄の話（1）

病気を追放「パン食貯金」

農村に多い白米病（ヒビ・ガツチヤキ…ぢ病の一種…）を追放しようと食生活改善をしながら、貯蓄をすすめているグループがあります。

青森市の西南方四キロメートル、細越部落にある栄生活改善グループの人達で、この地方は白米病で医者がよいをする人が多く、一戸当りの医療代は年間平均六千二百円というありさま。

そこで、一日一回はぜひ自家製のパン食にしようと思いたち実施しました。すると、米食では副食とも一食二十三円かかるのに、パン食では副食とも二十円五十銭ですみ、その差額二円五十銭が貯金できるということがわかり、文字どおりの一石二鳥。

ところが、この運動にもいろいろと支障が生じました。というのは、パンを焼くための改善かまどでは量の割りに時間と手数がかかり、能率が良くないことです。そこで、一週間分くらい焼ける設備、小型パン焼電気がまを購入することに決め、その設備資金に米食とパン食の差額分や、農閑期わら工品販売代金の一部を積立て、一年ほどでついにその目的を達しました。

こういうちよつとした思い付きで、現在では「医者奉公」の病人もなくなり、いままで病気のため雇い人夫を頼んでいた人たちもその必要がなくなつたので、そのための支出も減り、逆に他家へ手伝いに行くことができるようになりお金はふえる一方、部落中「健康」と「貯蓄」の二つの水車が、明るい音を立てて回つています。

（貯蓄実践例第三集より）

少年、不良化の恐れ

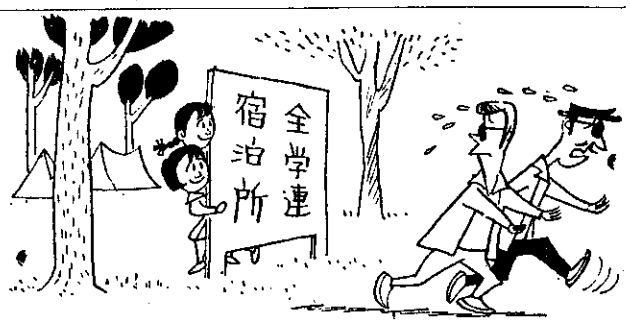
発見したら保護司へ

十四才から二十才までの少年が、理由もなく家へ寄りつかないとか、物を持ち出したり、いつも悪い友だちと遊んでいたりいかがわしい場所に出入しているような場合は、不良化のおそれがあります。このようなときには家族はもちろん、近じよの人も家庭裁判所の少年審判部に申し出れば、その少年を保護してもらうことができます。そこで、そういう少年が発見されたら、地域社会の浄化運動に奉仕している近くの保護司や、更生保護婦人会にご相談ください。

当町の保護司は、次の人たちです。（敬称略）

◎小幡地域　松浦亮一、新井虎吉、中島秀雄、田村知道
◎秋畑地区　新井佐平、安藤泰道
◎新屋地区　新島辰蔵、小安順祐
◎福島地区　篠原三郎

（甘楽富岡保護司会）



夏の犯罪防止七、八月中

黒沢翁

不在者投票

甘楽町の有功者として最長老の黒沢長吉翁（八十八才、善慶寺）は、身体故障のため十二日に不在者投票をしました。これは当町三人めの投票です。

黒沢長吉翁

「選挙するのは与えられた権利です。これを行使しないのは、自分がおこたつているからです。自分はからだのゆるす限り、どんなに骨が折れても実行します。」と語る黒沢翁は、さらに「いままでに投票しなかつたことは、一度もありません」と、はつきり言つています。

みなさん、若い人が投票をおこたつては黒沢翁に笑われますよ。

麦、春蚕の被害概況

意外に多い春蚕被害

2、3月ごろより日照りが続き、生育状況が危ぶまれた麦は穂ばらみ期には入つてから回復し、その後ほぼ順調に収護期をむかえました。しかし、脱穀した結果は予想外に減収だという声が多いようです。

また、年々凍霜害にうちひしがれて減収を続けてきた春蚕はその成績が珍らしく良好で、各地に桑不足を生じました。ところが、上ぞく期には入つてから発病したのが意外に多く、被害戸数は九十に達しました。

さる7月5日に麦、春蚕とも調査書の第一回連合会審査が行なわれました。被害の状況は別表のとおりです。

春蚕まゆの被害程度別箱数

3割以上被害戸数	皆無	10～9割	9～8	8～7	7～6	6～5	5～4	4～3	合計	3割未満
87戸	2,5箱	54,5	38,0	59,0	59,0	79,5	66,5	43,0	402,0	18,0

麦災害種類別の面積及び減収量

災害名	大麦		小麦		裸麦		計	
	面積	減収量	面積	減収量	面積	減収量	面積	減収量
	畝	kg	畝	kg	畝	kg	畝	kg
かん害	1,808	11,265	2,033	11,381	270	2,534	4,111	2,5180
湿潤害	99	880	50	521	—	—	149	1,401
病害	10	56	65	164	—	—	75	220
計	1,917	12,201	2,148	12,066	270	2,534	4,335	26,801

☆相手が悪い
「君子危きに近寄らずだ」

いつく島に開田

用水施設完工

七月五日轟の厳島（いつくしま）地区を開田する用水施設が完工しました。

この地区はあまり水利に恵まれぬため、水田はなく、畑作にたよつている状態で、日照りの害をたえず受けていました。そこで、県補助による土地改良事業によつて用水施設をつくり、開田をして、土地利用の合理化と、農家経営の安定を図ることになつたものです。

事業は、用水施設として四インチのヒユーム管を八百三十四・五メートル布設して、厳島（いつくしま）神社東南方の谷川から吸水、自然送水し、約四町歩の開田をしようとするものです。この工費は、開田工費百六万円、水路工費百八十八万五千円（うち県補助二割五分）です。

＝写真はその送水管＝

農家の建物の保険

既報のとおり農業共済事業を町で運営することになりましたが、任意加入制である建物共済は町がこれを実施することができません。しかし、すでに加入している人たちから強い要望もあつたので関係団体と話し合つたところ、県連合会から町が委嘱されてこの事業を実施すればよいことになりました。

不時の災害にそなえて、農家はすすんで加入してくださるようおすすめいたします。

（共済係）

棄権防止に賞金

知事選挙、七月二十七日は投票日です。いま、四人の立候補者が立会演説会を中心に盛んな運動を展開しています。しかし、選挙熱は意外に低調で、しかも、農繁期のため棄権者が多く出る心配があります。そこで、甘楽郡、富岡市の話し合いによつて各市町村が、投票率優秀なものに賞品、賞金を出すことになりました。

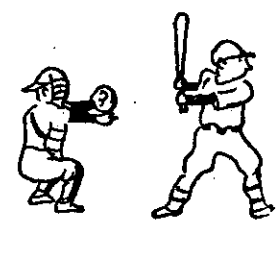
みなさん、一人残らず投票して、県政の良い代表者をえらびましよう。

なお、具体的には区長を通じお知らせします。

夏の野球大会

新屋教場でひらく

主催　甘楽町体協



◎とき　7月31日　前7時30分より
◎試合は地区対抗とし、第一試合は小幡～新屋　第二試合は秋畑～福島
◎選手資格は、町内に住所を有するか勤務するもの